

テーマ
プレカット工法って何？



今回は、広く普及している木造住宅のプレカット工法について解説します。
 現在ではほとんどのハウスメーカー、工務店がプレカットを採用していて、大工さんの手で木材を加工する工務店は減ってきています。

プレカット工法のメリット

大工さんの手作業の場合、その人の技術や当日の天気などが品質に大きな影響を与えますが、プレカット工法はコンピューターの制御、機械加工で、安定した加工品質の材料をスピーディに生産できます。その他にも工期がかなり短縮されます。工期の短縮によって、早く家が完成するので、費用的にも抑えることができます。

プレカット工法とは
 プレカットとは、一般的に「あらかじめ (Pre) 切断する (Cut)」という意味で使われています。住宅建築においては、住宅を構成する木材を、建築現場に持ち込む前にあらかじめ工場で適切な形に切断・加工しておくことを指します。

加工する前の木材

特殊な手加工が必要な部材は機械でカットしたら早く正確だよ!

形が整えられました

機械で切断・加工

組み立ては機械で出来ないからやっぱり最後は人の「技術」が必要だよ!

熟練の大工さんが組み立てます

昔の人ほどんな工法で行っていたの？

古来より日本の職人たちによって受け継がれ、洗練されてきた“手刻み工法”(伝統構法)である「木組み」を基本としたものです。
 手刻み工法とは、家の骨組みづくりにおいて釘や金物などに頼らず、木自体に切り込みなどを施し、はめ合わせていくことで木と木をがっしり組みあげていく技術のことを言います。
 大工さんはそれぞれの木の性質をよみ、たとえ年月がたっても木が生きようような使い方を導き出し、木材同士をより強く美しく組み上げるため、プレカットでは対応できない継ぎ手・仕口の加工を施します。手刻み工法は、地震や台風などに強く、すぐに倒壊することは考えにくいと言われています。



玄場だより

鹿児島市吉野町
 K寺 正門工事



現在、吉野町のお寺の正門を施工しています。こちらの現場では、上記で紹介した「手刻み工法」を採用しています。手刻みを施した木材が左上の写真です。大工さんが墨付け木材加工し、現場で、門を組みあげています。プレカットでは出せない、反り屋根の曲線等見とれてしまいます。完成前ながらも凛とした強さ、美しさを感じます。現場は、交通量が多い交差点に面しており、信号待ちをしている車や歩行者が、写真を撮ったり、門を指さしながら話をしている様子を多く見かけました。完成が楽しみです。

現場レポート 住職も大感動、大絶賛です!伝統工法と大工技術のすばらしさを改めて実感できる門です。ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。(9月中旬以降の見学をお勧めします。)

今月の玄人

左官職人 津曲 信利さん



左官とは、漆喰や珪藻土、モルタルなどの材料をコテを使って壁・天井・土間などに塗る仕事です。

今回紹介する玄人は左官職人の津曲さんです。10代の頃から修業を積んできた左官歴33年の大ベテラン。「大工さんの紹介が終わっていないのに先に僕でいいの?」と普段は謙虚で優しい津曲さん。取材を始めると熱い気持ちを話してくれました。「左官は天気・湿度に左右されるため、現場で材料を調整して塗ります。この調整判断が重要で、腕一本で勝負する世界の、スピードと美しさを常に意識して取り組んでいます」と語る目はまさに玄人そのものです。

玄人よりヒトコト

左官は目立たない仕事ですが、職人の腕で家の仕上がりが大きく変わる重要な仕事です。種類も豊富にあり、塗り方ひとつで表情が変わってくるので、用途と好みに合わせての提案が必要です。

新築・リフォームは補助金を上手に活用しましょう!!

新築工事、リフォーム工事に対する国の補助金の採択を頂きました。対象工事により**最大で100万円以上の補助**を受けることができます。なお数に限りがありますので、詳しくは住まいる玄までお早めにご相談ください!
 「こんなにも使える?」というお問合せも大歓迎!

0120-679-146
 ムリナク イイホーム